

# 海外派遣プログラム 実習報告書

フィリピン大学マニラ校

期間：2016年4月4日～4月28日



神戸大学医学部医学科6年

1103518M 緒方 真麻

## 1. 初めに

2016年4月4日から28日の4週間、フィリピン総合病院 (Philippine General Hospital) で実習を行った。フィリピン総合病院はフィリピンを代表するフィリピン大学マニラ校医学部付属で国内最大規模の国立総合病院であると同時に、フィリピン最大規模の医学教育病院である。最初の2週間は総合内科、後半の2週間は循環器内科を回った。



## 2. 総合内科

総合内科では医師が6つの”サービス”と呼ばれるグループ制で患者を担当しており、私もそのサービスの1つに所属した。総合内科を回っているフィリピン大学医学部4年生の1人が私のバディとなり、その学生について回った。

### ある1日のスケジュール

時間	業務
7:00~9:00	Morning endorsement 夜勤から日勤への引き継ぎ
9:00~10:00	内科全体でのレクチャー
10:00~13:00	担当患者の採血やカルテ記入など
13:00~16:00	Case management 学生による症例報告
16:30~	Evening endorsement 日勤から夜勤への引き継ぎ

私が総合内科をまわっていて最も驚いたことは、学生が医師団の1員として患者を任されている点であった。フィリピン総合病院では4年生・5年生の学生が実質的に患者の管理を行っており、カルテ記入や採血等の手技、検査の指示出し、バイタルサインの測定などをこなしていた。また、毎日の引き継ぎや3日ごとの夜勤も学生のカリキュラムの一環であり、日本と比較して学生に求められるものが非常に大きいと感じた。私自身も採血や静脈ライン確保などの手技を毎日行わせていただいた。



フィリピン総合病院は、貧しい患者のための“Charity Ward”と富裕層のための“Paid Ward”に入院病棟が分かれており、総合内科では医療費がかからない“Charity

Ward”の患者を診ていた。“Charity Ward”は50人の患者が、エアコンのない熱気がこもった環境の中1つの大部屋で入院しており、衛生面で不安になった。

### 3. 循環器内科

循環器内科ではカンファレンスに参加し心エコー検査、カテーテル治療、外来診療などを見学した。フィリピンでは医学教育はすべて英語で行われており、カンファレンスや講義もすべて英語であった。患者もほとんどが英語を話すことができるが、フィリピン人同士の会話は普段タガログ語であり外来診療もタガログ語で行われていた。

ある1日のスケジュール

時間	業務
8:00~10:00	術前カンファレンス
10:00~12:00	外来診療見学
13:00~15:00	2Dエコー講義
15:00~17:00	2Dエコー見学

後半の1週間では実際に外来で患者の問診・身体診察を行わせていただき、その患者に関する症例レポートをまとめて発表する機会を与えられた。日本では症例が少ないリウマチ性心疾患による僧房弁狭窄症、僧房弁閉鎖不全症の患者を担当し、非常に勉強になった。今まで英語で症例報告を行うことがなかったため苦労したが、この経験により成長することができたとともに、今後は今までよりも一層英語を意識して医学を学んでいく必要があると感じた。



### 4. フィリピンでの生活

フィリピンに滞在中、私は大学と道路を隔てたコンドミニウムに滞在した。大学の周囲には多くのコンドミニウムがあり、学生や医師の多くが住んでいる。私が滞在したエリアは比較的安全であると感じたがやはり日本と比べると治安が悪く、大通り沿いの店の前では銃を携帯したガードマンが常時監視していた。夜間の外出を避ける、細い路地には入らないなどを心掛けるようにした。



私が滞在した4月は乾期で雨もほとんど降らず、真夏の気候であった。週末には、同時期に来ていた留学生とともにパラワン島やセブ島へ行った。透き通ったきれいな海でシュノーケリングを楽しんだり、川でキャニオニングをしたり有意義な週末を過ごすことができ良い思い出となった。

また、実習中に会った学生たちは皆とても親切で、ご飯に誘ってもらったり観光に連れて行ってもらうたりした。同年代ということもあり、お互いの国の医学の違いについてなど話題は尽きず、短期間であったが交流を深めることができた。



## 5. 終わりに

1人で行くということもあり、実習前は不安な思いが強かった。しかし始めてみると新しく学ぶことばかりで毎日が楽しく、あっという間の4週間でもう少し滞在したいという気持ちになった。

今回の海外実習を通して、将来海外に長期留学したいという思いがさらに強まった。またそのために、今後何をやる必要があるのかということも具体的に考えることができた。フィリピンの医師・学生のレベルの高さに驚くとともに、今の私の医学知識・英語力では議論についていくには未熟であるということを知った。長期留学に向けて、フィリピンで学んだことを生かしていきたいと思う。

最後に、フィリピンへ同行していただいた久野先生、北村先生をはじめフィリピン滞在中に助けていただいた Susie Sio 教授、その他多くの方のご協力での留学を無事に成し遂げることができた。この機会を与えて頂いたことに感謝したい。